



第7回

藤島超勝寺（西・東超勝寺）

（福井県福井市藤島町 37-1・47-5）

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は福井市藤島にある超勝寺を紹介し^{ちやうしょうじ}ます。超勝寺といえば、享禄4年（1531）、本山の支援を得た超勝寺・本覚寺等が加賀一向一揆を統制していた一家衆（第8代蓮如上人の子）の賀州三カ寺と争った享禄の錯乱（大小一揆）がまず思い出されます。この超勝寺の創建には、和田の信性^{しんしやう}が福井市和田に和田道場（後の和田本覚寺）を開き、真宗高田派の布教を始めたことが関わっています。信性の没後、長男の長松丸と弟の長若との間で後継者を巡る対立が起こり、長松丸が支持する門徒らと和田を去ることになりました。しかし長松丸はまもなく亡くなり、残された門徒らは第6代娵如上人の二男頓円鸞^{とんえんらんげい}藝を迎え、藤島領主の藤島（斯波）豊郷の勧請を受けて藤島に一寺を創建し超勝寺と号しました。永正3年（1506）、加賀一向一揆と朝倉氏が争った九頭竜川^{くずりゅうがわ}の戦いに参戦して敗れ、越前国内の一向宗寺院は破却されて国外追放となり超勝寺は本覚寺とともに加賀に逃れました。その後、加賀統治の方針の相違で賀州三カ寺と対立を深める中で起きたのが享禄の錯乱でした。永禄11年（1568）、本願寺と朝倉氏の和睦が成立すると超勝寺は藤島に戻ります。慶長7年（1602）本山が東西に分立すると、超勝寺も東西に分かれて現在に至っています。西超勝寺は明治15年（1882）に別格寺の格式指定を受け、さらに昭和10年（1935）別格別院超勝寺となり、西本願寺23世光照門主が住職を兼務されました。



東超勝寺（真宗大谷派）

西超勝寺の境内は南北朝期の南朝方足羽七城のひとつに数えられる藤島城跡に比定されており、本堂背後に土塁の一部が残っています。延元3年（1338）、新田義貞がこの藤島城の南朝軍救援に向かう途中で燈明寺^{とうめいじ}（現在の新田塚周辺）で戦死したと太平記に記されています。藤島を歩くと、周辺は平野が続いていて防御にはとても不利に感じましたが、今も水路が幾筋も流れている水の豊富な地域であり、周囲に土塁と水堀を巡らせた堅固な平城であったと想像されます。

さて、東超勝寺は蓮如上人6歳の姿とされる「鹿子の御影」^{かのこごえい}を所蔵しています。この絵像は蓮如上人の母が第7代存如上人の正妻でなかったことから、本願寺を去るときに形見として絵師に二幅作らせ、一幅をご自身が持ち、もう一幅を我が子に残したものと伝えられ、超勝寺には蓮如上人の12女蓮周尼^{れんしゅうに}が超勝寺4代蓮超に嫁いだときに伝わったとされています。「一向一揆歴史館叢書2 越前一向一揆」にも掲載されている絵像の実物をいずれは見てみたいと思いました。

参考資料
東超勝寺配布の
藤島超勝寺解説

西超勝寺の公式
ホームページ



西超勝寺（藤島御坊本願寺派別格別院）



西超勝寺境内に残る藤島城跡の土塁